

「関大生の学びと育ちをサポートする」

関大生のキャリアサポート

Dグループ：阿南（学生）、油田（職員）、糟野（学生）、杉原（職員）、水谷（教員）

目次

1. 本学におけるキャリアサポートの現状

- ・他大学の事例
- ・改善案

2. KICCSの現状

- ・改善案①
- ・改善案②

3. まとめ



本学におけるキャリアサポートの現状

<プラス面>

- ・低年次支援にも力を入れている。
- ・個別でのキャリア相談を何度でも使用することができる。
- ・定期的に合同企業説明会を開催してくれるため、様々な業界・企業について知るタイミングが多い。

<マイナス面>

- ・志望企業・業界で働いている人の「リアルな声」を得る機会が少ない。
- ・キャリアセンターから通知されるイベントが多く、自分にとって必要な情報を絞れない。
- ・オンライン面接やインターンで使用できるスペースが限られている。
- ・就職活動の用意(スーツや靴)を預ける場所がない。

他大学の事例

関西学院大学

- 学生向け
チャットボット

同志社大学

- 留学生向け
就活イベント

立命館大学

- サイトの視認性
- 院生独自の
サイト設置

龍谷大学

- 卒業生が回答する
チャット
- キャリア形成補助金

桃山学院大学

- 低年次向けのキャリア
アカデミーの実施
(夏季休暇中)

その他

- 地元の商工会議所と
連携し、1、2回生
を対象に中小企業の
職場体験

改善案

- ・気軽に卒業生とやり取りができるようなシステムを取り入れる。

→チャ

・キャリ

例：—

これらは他大学で行っているキャリア支援で、
本学でも取り入れることができると考える。

KICSSの現状

<プラス面>

- ・“関西大学”が紹介しているという安心感
- ・企業情報が一目で

【課題】

<マイナス面>

- ・情報の選択肢が多
- ・就職活動に対する

情報の取捨選択が困難...

欲しい情報が見つかりにくい

改善案①

【 既存ツールの活用 】

○検索の区分を細分化する

○情報提供側(職員)が、情報の優先順位をつける

→最重要なお知らせは個人伝言、イベント情報はこのツールなど、各ツールの棲み分けを行う

学生・教員・職員間で
共通認識が必要

改善案②

【 新しいツールの創作 】

○イベント情報に特化したツールを作成する

→総合情報学部で実施(アプリケーション開発実習)

他大学の例

- ・東京工科大学：学生が学内システムを作成する取り組み

→各ツールの入口を一本化する

参照：<https://cloud.watch.impress.co.jp/docs/case/689058.html>

まとめ

関大生のキャリアサポートのためには「低年次支援」や「合同企業説明会」など、現状で良い点については引き続き行い、他大学での取り組みを本学流に変換した上で積極的に取り入れる必要がある。

例) KICSSの内容を充実させ、学生の利用率を上げる。

→卒業生への進路アンケートを書いてもらう際に、内定先の選考フローも書いてもらう等。

例) キャリア形成補助金制度を取り入れる。(予算の都合上、夏頃までに内容を精査する必要あり)

例) チャットシステムなどを用いて、OB・OG訪問がしやすい環境を整える。



三者の今後の取り組み方

<学生>

システムを実際に利用した上で、改善してもらいたい点を積極的に大学に発信する。

<職員>

学生の意見と真摯に向き合い、学生がキャリアサポートを使いやすい状況を作る。

<教員>

最重要のイベントはゼミや授業内で通知するなど、多くの学生の目に留まるようにする。

ご清聴ありがとうございました！

